

「くらしの化学」を受講して

工学研究科 生物応用化学専攻 1 年 王 楚涵

私が福井大学で共通教育を受けたのは今から 2 年前までのことです。共通教育の授業は大いに役に立ちました。共通教育では、私たちのまわりのさまざまな分野の知識を学ぶことができます。共通教育は、すべての学生が履修しなければならない科目ですが、幅広い選択科目の中から自分が興味を持った科目を選ぶことができます。昔は決められた授業しか選べなかったそうですが、今はもっと自由になりました。

福井大学に入ってから学部 3 年生まで、私は 3 年間でいろんな分野の共通教育の授業を受けました。その中でもっとも印象に残っているのは、2 年生の後期に受講した「くらしの化学」です。

生物応用化学科の私がなぜ共通教育でも化学系の授業を選んだか。その理由は、同じ留学生の先輩から、この授業を担当される先生の日本語は、留学生にも分かりやすいと教えていただいたからです。共通教育のほとんどすべての科目は、日本語で授業が進められます。これは留学生にとって、とても困ったことです。先生によっては早口の人もいらっしゃるし、方言で話される先生もおられます。ですから、私は分かりやすい日本語を話してくれる先生の授業を選びたかったのです。実際に授業を受けてみると、先輩が教えてくれた通り、この先生の日本語は本当に分かりやすかったです。

この授業は、その内容も面白かったので、私はだんだんこの授業を受けるのが好きになってきました。「くらしの化学」の授業は、日常生活の中での「化学」を取り上げていました。たとえばタンパク質、核酸、水といったテーマ別に応用生物化学の複数の先生方が講義をしました。一般的に化学の授業といえば、複雑な化学反応式が羅列し、つまらなくて分かりにくいと思われがちですが、この授業では先生方が分かりやすいプリントを用いて、私たちの生活の中にある基礎的な化学について教えてくれました。専門が化学系ではない学生たちに対しても本当に分かりやすく、将来の役に立つと思います。現在の私たちの生活は化学とは離れられないですから、ある程度の化学知識を身につけることはとても重要ではないでしょうか。「くらしの化学」の授業を受講すれば、皆さんも化学をもっと身近に感じることができるでしょう。